

楽ちゃんの歩き倒すぞ！

With チャリンコ&ウォーク
「多摩の川」探検隊

Vol. 5



【我が多摩川へ！】

さあ、次はいよいよ多摩川だ。山梨、東京、神奈川へ伸びる、全長 138km の自然豊かな一級河川、まだ護岸化されていない部分も多く、野草や野鳥の宝庫である。この川を遡ると源流点を示す札が立っていたり、途中の三角州は野生動物の密集地帯だったり聞き、驚いた。タヌキ、キツネ、イタチ、シカ、アナグマ、アライグマ、イノシシまで...？ ひえ～。



【多摩川は流れる、関戸橋の下】

関戸橋を北上する。車が往来すると、橋が揺れる。ああ、震災の瞬間、ベルブ永山の横の歩道橋がすごく揺れたのを思い出すな。関戸橋の下は飛び石がキレイ。それを見てたら不意に懐かしい歌を思い出した。「川は流れる橋の下～」を連呼する歌。誰の歌だったか。川の水は美しい水色に輝く。あれ、多摩川ってこんなにキレイだったのか。守らなきゃね。

【多摩川サイクリングロード】

関戸橋を越えると、右は調布へ行く時に通った道で、左は日野税務署へ通った道だ。右折。左手に府中市だけ東京多摩郵便局。右手は一面のススキとバオバブみたいな木が林立。日本じゃないみたい。都会の喧騒、どこへやら。風が心地よい。ここは「かぜのみち」と名前がつけられ、よく誰かとすれ違う。ランダムに走っているようで、実は4車線。左から、歩行者上り・自転車下り・自転車上り・歩行者下りの順に通る。人とチャリがぶつからないように、うまく考えられている。路面には緑色の段々があり、チャリのスピードが出ないように工夫されているのだ。

【多摩川東端♪】

しばらく行くと、対岸に見覚えのある交通公園が。野鳥の観察小屋も、こんなに離れた場所から見ると、なんだかオシャレでカッコいいな。ユリカモメも寄りたくなるわ。府中市を幾分か走ったので、

引き返すことに。よし、対岸から多摩市の端っこ、見届けたり！

【せいせきみらいフェス】

今度は関戸橋から左折、八王子方面へ。あ、キューピーのビルだ♪仙川のキューピーマヨテラスという見学施設は、キューピーの歴史や美味しさの秘密、ものづくりへの思いなどが楽しく学べるんだよ。京王線の下をくぐると、一ノ宮公園が広がる。わあ、9月にここでみらいフェスやってた！多くの企業、商店、医院、個人の方々のご協力で実現したお祭りで、地域交流、街づくりを目的に「みらい」を担う子どもたちが様々な仕事体験をする「KAOFES」、ステージパフォーマンス、途切れた花火も市民の力でよみがえり、今年はラスカル花火やハート花火のあまりの可愛さに、歓声が上がった。去る10月12日、未曾有の台風19号が、この多摩市にも襲いかかった。堤防ギリギリで住宅街を守ったこの一ノ宮公園も、ブランコやベンチには流木が巻きつき、テニスコートや球技場も濁流にのまれた。ありがとう、早くいこいの場として再生を。

【多摩川西端！】

公園は広くてのびのびしており、ゲートボールに興じる人、ベンチに腰かける人、土日は子どもたちであふれる。あ、ブランコ！立派な橋は、府中四谷橋だ。その先は川が二手に分かれてて、北は府中へ、南は浅川となって八王子へ。浅川では手作りイカダのサバイバルレースが、2008年まで毎年くり広げられた。さてさて、これで多摩川の東端と西端の市界を見届け、いよいよこの川シリーズも終了だ。ここまで夢のチャリンコ旅行にお付き合いいただき、ありがとうございました。次は小さな川を冒険しようかな。その時は皆様もぜひ！

《サークル作品紹介》

俳句ベルブ

再検査のベッドの上や肌寒し
迷いなく故郷ブランド今年米
枯野道の果てにぽっかり富士の山
総出して漬樽洗う初時雨
茶の花や少女に似合う耳かざり
駅ナカの立蕎麦すする初時雨
不揃いの屋台の椅子や初時雨

綾野 栄紀 江以子 勝三 阜京 眞司 夕エ子